



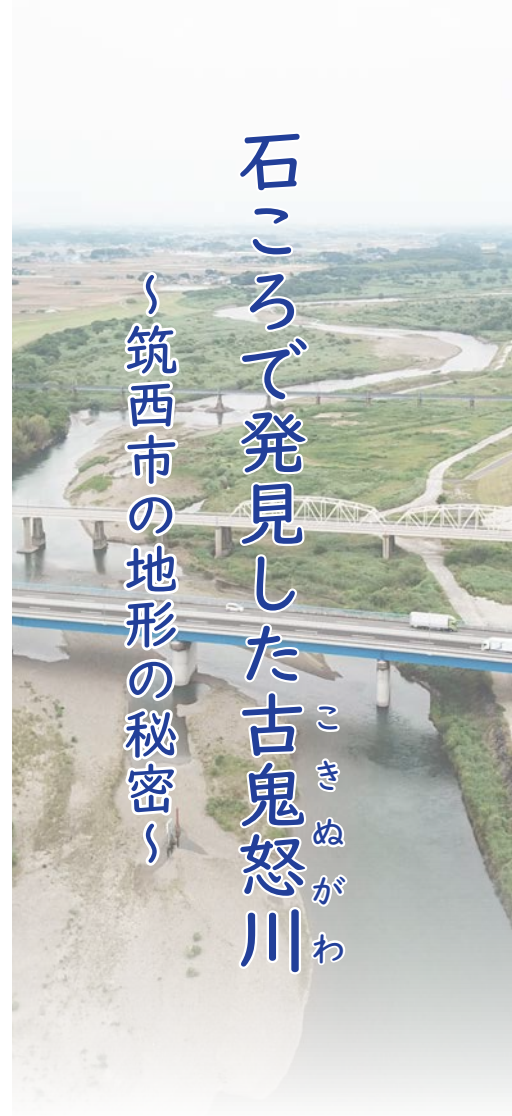
しまだ さとる
島田 敏 さん (海老ヶ島)

地形形成の歴史を知ったことで、市内の風景がすっかり変わって見えるようになりました。

みなさんは、筑西市の地形がどのように作られたのか、気になったことはないですか。実は、川島周辺を流れる鬼怒川が、長い時間をかけて流れる場所を移動したことで作り出されたものなのです。筑西市の地形形成と鬼怒川の関係について詳しく知りたいと思います、かつての鬼怒川「古鬼怒川」の存在を発見した、河川地形学専門で元筑波大学助教授の池田宏さんにお話を伺いました。

古鬼怒川の発見

「小さいころから石が好きで、地形



石ころで発見した古鬼怒川

〜筑西市の地形の秘密〜

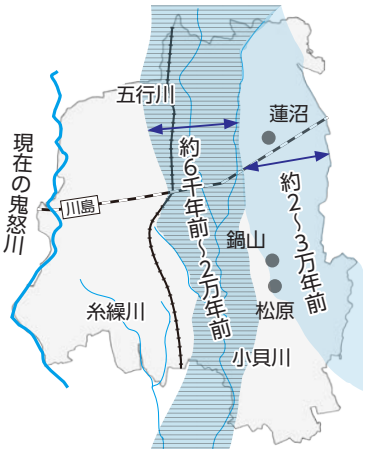
こきぬがわ



約2〜3万年前の流路跡
(地理院地図を加工して作成)

に興味がありました。古鬼怒川を発見したきっかけは、筑波台地周辺地の調査を行っていた際に採れた石が、現在の鬼怒川の石と同じだと気が付いたことです。そして調査を進め、流れていた年代を特定しました」と池田さんは話します。

3万年前、古鬼怒川は今の鬼怒川あたりを流れていたそうです。しかし、最終氷期の寒冷化が進み、山の木が育たなくなったことで上流から大量に砂やれきが流れてくるようになりますと、河床が上昇しより低い場所へと流れを変え、蓮沼から桜川市酒



かつて古鬼怒川が流れていた範囲

寄付近に移動しました。その後も、河原の幅を広げながら流れを変え、約2万年前には今の小貝川、そして、今の鬼怒川あたりを流れるようになりました。

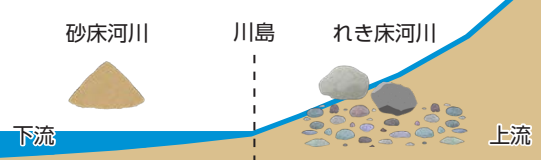
現在でも古鬼怒川の歴史を感じられる場所があるそうで「五行川や糸線川は古鬼怒川の流れが残ったものです。また、鍋山、松原周辺では、約2〜3万年前の流路跡を見ることが出来ます」と池田さんは教えてくれました。

現在、筑西市の地中には古鬼怒川の大量の石と水資源が豊富に蓄積し、古鬼怒川によって削られてできた低地は、稲作やこだますいかなどの施設園芸に、残った台地は、梨などの果樹や畑作に利用されている様子が見られます。

鬼怒川と三所線の繋がり

他にも市内に、鬼怒川と筑西市の繋がりがある場所があるそう

鬼怒川の川底の図



取材を終えて

です。「川島は、鬼怒川の川底の状態が大きく変化する変曲点です。川島を境に川底の勾配はガラリと変わり、上流は砂と小石が多く、下流は砂がたまります」と池田さんは話します。そのため、質のいい砂利が取れる採掘地となり、かつて関本から川島に敷か



古鬼怒川について教えてくれた池田さん夫妻

何万年前もの出来事が目に浮かぶような、興味深い話を聞くことができました。池田さんは今でも奥さんと各地の地形を巡っているそうです。古鬼怒川に思いを馳せながら、筑西市の地形を探検してみたいかがでしょうか。